

# 交通事故

飄

々

広報委員

川野 豊一

というわけで、高齢の運転者が起こした交通事故の報道を連日目にするような気がするが、交通戦争の再来であろうか？「交通戦争」とは、昭和30年代以降に交通事故死者数の水準が日清戦争での日本側の戦死者数（2年間で1万7,282人）を上回る勢いで増加したことから、この状況は一種の「戦争状態」であるとして付けられた名称だそうです。TVなどのメディアで年末になると毎年のように前年の死者数を上回ったという報道

を見た覚えがあるが、1970年に1万6,765人を記録したのがピークらしい。

「e-Stat 政府統計の総合窓口」というサイトで「道路の交通に関する統計」を自由にダウンロードできるようになっている。「原付以上運転者（第1当事者）の年齢層別死亡事故件数」では、2009年から2019年までの年齢層別データを見ることができる（各年とも11月末までの数字ら

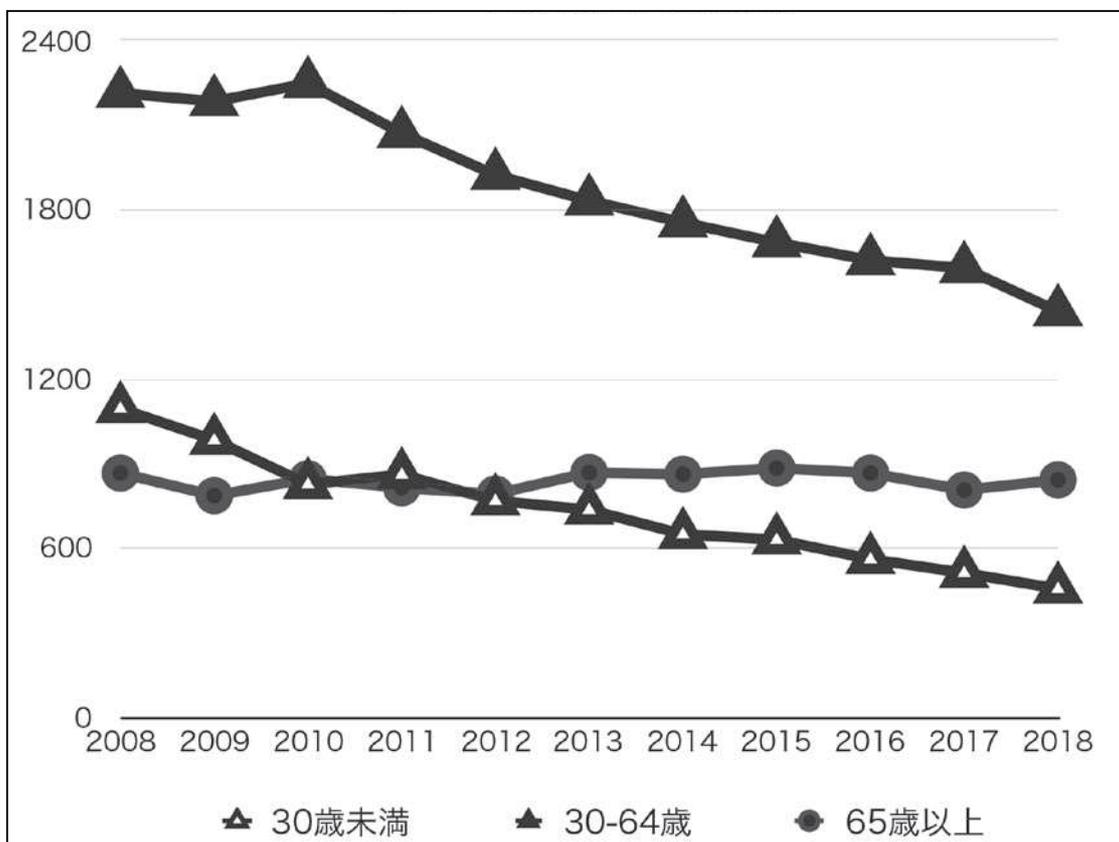


図1 年齢層別死亡事故件数

しい)。

第 1 当事者の年齢が 30 歳未満と 65 歳以上のいわゆる高齢者でグラフを書くと、**図 1**のようになる。30 歳未満ではこの 10 年間で死亡事故件数は半減したが、65 歳以上の高齢者が起こした死亡事故件数は横ばいである。2012 年からは高齢者が起こした事故件数が、「事故を起こしやすい」と言われる 30 歳未満のそれを上回っている。また、中間の年齢層でも若年層と同じように死亡事故件数は減少している。大まかに言えば 2008 年から 2018 年の間に死亡事故件数は 2/3 となり、若い年齢層ではより死亡事故件数が減っているが、逆に 65 歳以上では死亡事故件数は変わらず、75 歳以上でみると却って事故件数が増加している。

事故の件数が増えたのは高齢者の数が増加し、人口に占める割合が高くなったためではないかとも考えられる。そこで、免許保有者 10 万人あたりの死亡事故件数という統計を見ると、この 10 年ほどで全年齢での免許保有者 10 万人あたりの死亡事故件数は 5.23 件から 3.33 件へと減少し

ている。65 歳以上の免許保有者 10 万人あたりの死亡事故件数は全年齢のそれよりも高くなっており、75 歳以上とするとさらに高くなっていることが見て取れる。**(図 2)**

やはり、高齢になると重大な事故を起こしやすくなるのは間違いなく、事故を起こして人に迷惑をかける前に自動車の運転をやめるのが一番かと思う。しかし、田舎は都会と違ってクルマの代わりとなる地域の公共交通などが衰退している。できれば、高齢となっても便利なクルマが安全に利用できるように、レベル 5 の自動運転が実現してもらいたいと思う。

蛇足：オートマチック車よりマニュアル車のほうが頭も手も足も鍛えられるので、高齢者を鍛えるのに良いのではなかろうか？ 65 歳になったら、マニュアル車限定免許証に切り替え？

※図 1・2 については、「e-Stat 政府統計の総合窓口」サイトに掲載のデータ(表)を基に筆者が作成

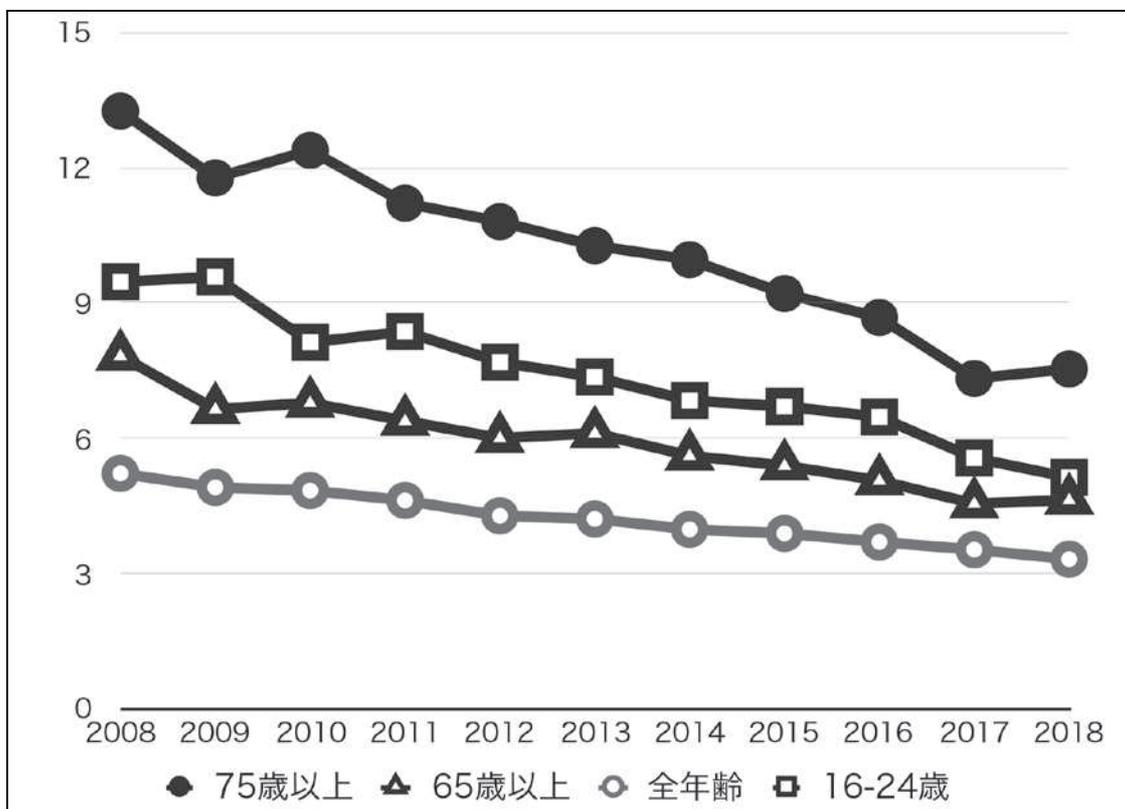


図 2 免許保有者 10 万人当りの死亡事故件数